**第3回　大阪府泉佐野丘陵地緑地 運営審議会<概要版>**

日時　平成26年9月29日（月）　14:00～17:00

場所　泉佐野丘陵緑地　パークセンターほか

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　教授　下村泰彦

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

**◆ 欠席**

大輪会　事務局長　中村学

大阪市立大学大学院　准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　近藤幸信

**◆ 傍聴者**

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　1名

**◆ 次第**

1. 現地確認 14:00～

2. 協議案件 3件　 15:30〜

　　①評価項目検証のためのデータ収集について

　　②平成27年度事業計画について

　　③「水辺の広場」ほかゾーニングについて

3. 協議案件 2件　　 16:15〜

　　④平成26年度パークレンジャー養成講座（後期）について

　　⑤パーククラブ活動報告（7〜9月）

5. 閉会 17:00

◆**開園イベントおよび開設後の状況報告**

大阪府（以下、事務局）より開園イベントおよび開園後の状況について報告。

・テレビ放映などを録画しているのであれば、パークセンターで放映するとよい。また今後は、地元のケーブルテレビや雑誌が取材のために公園を訪れるはずである。うまく活用するとよい。

＜**協議案件1：評価項目検証のためのデータ収集について＞**

事務局より、公園の評価項目を検証するために収集するデータについて説明。

・収集したデータをどのように評価していくのか、早めに検討しなければならない。例えば、動植物の種類や数は時期によって変動するものである。目先の数値の増減に一喜一憂するのではなく、これらを長期的に見てどのような方法で評価するのかを、検討しておかなければならない。

・景観配慮に関する項目について。保全面積などの指標があるが、保全樹林の定義を検討しなければならない。資料に示された計算式では。何かの保全面積が増えれば、他の類の保全面積が減っているということになる。この点も考慮しなければならない。

・受け取った要望に対してどのような対応をしたのかという情報を蓄積しておき、１つ１つの対応が理念に沿ったものであったかどうかを検証しなければならない。

・公園でどんなプログラムが提供され、それに対してどんな参加者が集まったのかという情報と、その方々の満足度に関する情報も収集しなければならない。

・この公園は他の18府営公園と違い、パーククラブと大阪府が協働で管理している。この協働を評価することが重要である。公園の運営と管理の両面を評価する指標を定めておく必要がある。各イベントの適性を評価することと、来園者の意見をアンケートで収集しておくことで、数値化できない評価を蓄積しておくことが大切である。

・運営審議会ではパーククラブとともに公園を巡回し、景観整備などの観点で評価を行っている。この評価内容を公開することができるよう、報告としてまとめておく必要がある。

・公園の事業計画やパーククラブの活動方針を議論するタイミングを定めておくとよい。そして、運営審議会の議事録を評価結果とするとよい。

＜**協議案件2：平成27年度の事業計画について＞**

事務局より、平成27年度の事業計画について説明。

・今回開設されたのは中地区だが、来年度はこの区域に対する予算は必要ないのか。この公園は、他の公園とは異なる整備方法で進めている。例えばレンジャー棚田を水田にしていくという案があるが、そのためにはイノシシ対策の工事が必要になる。このように開設後も整備が続くことになるが、そのための費用は中地区の管理費の中に含まれていくのか。新しい公共事業となるので、工夫が必要である。既に開設した区域に対しても、熟成させるために資本を投下できる仕組みを検討しなければならない

・開設に伴う運営管理費という項目があるが、これはどのような枠組みの中で計上していくのか。過去の公共事業では、他の区域の工事費を削減し、開設済みの区域の運営費や活動費に回すという方法を実施してきた。しかしこの公園は過去とは異なる方法で、開設した区域を運営していくために、どのような枠組みで予算を組むことができるかを検討しなければならない。

＜**協議案件3：「水辺の広場」ほかゾーニングについて＞**

事務局より、水辺の広場とその周辺のゾーニングについて説明。

・竹林の間伐が計画に含まれているが、竹林のままでもよいところもある。無闇に整備する必要はない。場所を選定し、目標をさらに絞ってもよいかもしれない。

・工事を進める際にはパーククラブも道づくりなどを担うことになるため、パーククラブが担うことのできる範囲も検討しておかなければならない。

・企業協働の森は、来年度は資材のみを予算化しておくとよいかもしれない。そして実際に整備する時には、パーククラブを指導役とし、企業の方々が作業するという形を考えることができる。そして例えば年に４回の企業活動をプログラムとして想定するならば、それに見合った作業量を想定しておかなければならない。

・パーククラブの果樹園に関する計画について。果樹園にするというのは、多様性という観点では良いことであると考えている。ただ果樹を移植する場合には、品種の選定が重要である。適切な品種を購入することも検討したほうがよい。

**・**里山の風景という見方をした時に、複数の種類があるほうが面白い。ヤマザクラは花が綺麗な品種もあるが、同じ品種ばかりを植えると、同じ時期に同じ色で花を咲かせることになる。しかし実生をうまく植えると、春の開花の時期が少しずつずれて、花の色も少しずつ異なり、良い雰囲気になる。

・中地区だけでなく、東地区と西地区も含めて、移植できるような1〜2m程度の幼木があれば、移植するとよい。ヤマザクラは購入せず、移植するほうがよい。

＜**報告案件1：平成26年度パークレンジャー養成講座（後期）について＞**

事務局より、今年度9月より開始されたパークレンジャー養成講座（第1回・第2回）について報告。

＜**報告案件2：パーククラブ活動報告（7〜9月）＞**

山本委員より、7〜9月に実施されたパーククラブの活動について報告。

・2年間グループに分かれて活動してきたが、グループ間の繋がりが希薄になっていたため、今は育成管理担当を設けるという形に移行しようとしている。以前は6〜7人しか活動日に集まらなかったこともあったが、今は平均して14〜5名参加してくれている。グループ活動を撤廃した効果が少しずつ表れているのではないかと考えている。

以上